

## 事業者の取組状況調査結果（アンケート調査、ヒアリング調査）

## 1. アンケート調査結果

## ①調査概要

令和3年10月28日時点

項目	調査概要
調査対象	県内に所在する事業所
調査方法	タウンページ登録の事業所を対象に産業分類別に事業所数の割合を考慮し抽出し、郵送配布・郵送回収
調査期間	令和3年10月15日～11月5日
配布数	1000事業所
有効回収数	123事業所
回収率	12.3%

## ②調査結果

※調査結果は集計・分析中

属性		事業所の業種、事業所の建物形態、事業所の従業者数、事業所の建物の延べ床面積、事業所の住居兼用も有無、事業所が所在する市町村
設問	問 1	貴事業所はプラスチックごみによる環境汚染の問題について、どのくらい関心がありますか。
	問 2	E S G（環境、社会、ガバナンス）を意識した経営・取組について、どのくらい関心がありますか。
	問 3	貴事業所はプラスチックごみによる環境汚染などの問題についてどのように考えますか。
	問 4	貴事業所で排出されるプラスチックごみなどについて、多いと思う順に3つまで選び、選択肢を（ ）に記入して下さい。また、ごみの排出量について把握している範囲内でよろしいのでそれぞれ記入して下さい。
	問 5	貴事業所では、次に挙げるプラスチック問題の解決に向けた取組を行っていますか。
	問 6	貴事業所におけるプラスチックごみ削減の取組として、従業員が①すでに実施していること、②実施していないが実施可能なこと、③実施が難しいことについて、それぞれ次の中から当てはまるものを全て選び、選択肢を（ ）に記入して下さい。
	問 7	貴事業所の従業員に対し、プラスチックごみ問題について環境教育・学習をどのような方法で実施していますか。
	問 8	自社の製品や商品等に関して長期間の使用を確保するため、耐久性の向上を図るとともに、製品の修理等が行える体制を整えていますか。
	問 9	自社の製品や商品等に関し、省資源化、長寿命化など廃棄物対応の観点で評価していますか。
	問 10	製品・商品等やサービスの納品先、販売先や購入者に対して、廃棄物の発生抑制のための協力を提案していますか。
	問 11	自社の製品や商品等において、過剰な包装・梱包材の使用をさけていますか。
	問 12	自社の製品や商品等を回収し、再使用、再生利用に取り組んでいますか。
	問 13	製品や商品等に、廃棄時の再使用・再生利用を想定した構造設計や材質の工夫を行っていますか。また、そのような製品を商品・提供品として取り扱っていますか。
	問 14	プラスチックを軽量化するなど使用量の削減に取り組んでいますか。
	問 15	処理業者を選定する際に重視している点はありますか。
	問 16	プラスチックごみを削減するために、行政に望むことはありますか。
	問 17	沖縄県の脱プラスチックごみの取組について、皆さんに知っていただくためには、どのようなことが有効だと思われますか。
	問 18	その他で意見等がありましたらご自由に記入して下さい。

## 2. ヒアリング調査結果

### 【食品・飲料等の製造・販売】

#### ① 今後の方針について

- ・当社が目指すペットボトル容器のビジョンは、「ボトル to ボトル」で全てのPETボトルをリサイクルPET樹脂または植物性PET樹脂に切り替えることである。  
一般的なPETボトルから100%リサイクルPET素材に切り替えた場合、1本当たり60%のCO2排出量の削減につながる。

#### ②現状のプラスチック製品の使用状況

- ・ビン容器は、空堀のリターンの課題や消費者ニーズの背景を受け、2007年より製造・販売をしていない。
- ・当社のプラスチック製品使用量は約1940t/年となっている。

#### ③ペットボトルのリサイクルの現状

- ・ペットボトルは公益財団法人日本容器リサイクル協会に再商品化を委託しており、本土のリサイクル工場へ搬送しリサイクル材料として利用されている。

#### ④取組状況

- ・陸域から海域に約2%のプラスチックが流出していると言われており、ステークホルダーとのパートナーシップを取り、回収・リサイクルスキームの構築と維持に努めている。  
また、海岸クリーンアップなどの回収ごみのデータなどを一般社団法人JEANに報告している。
- ・5月より一部の商品に100%リサイクルボトル(BtoB)を採用し、リサイクルの推進を図っている。  
これまで耐熱ボトルを採用していたが、6月より無菌充填(ASP)製造ラインの稼働に伴い、耐熱ボトルよりも軽量化した容器を使用する事が可能となり、プラスチックの軽減化を実現。  
将来は産官協働して県内にて、PETボトル回収、再商品化及びプリフォーム生産できる循環型、持続可能社会の構築を目指す。
- ・商品パッケージにリサイクルロゴを掲示し、お客様とのコミュニケーション(リサイクルの啓発)を強化している。

#### ⑤問題点・課題

- ・日本でのプラスチック製品に対して、PETボトルの割合は6.5%程度であり、その他のプラスチック容器や容器以外のプラスチック製品の割合が大きいのが、国民にはそのように認識されていない。
- ・自動販売機を設置する際に、自治体によってペットボトル回収容器の設置義務があるが、台風時の対応の問題やタバコ・お菓子や食品の包装関連、油類付着容器などの異物混入による再利用品の品質低下などの問題がある。
- ・県内のペットボトルの処理施設が整備され、循環スキームが構築できたらよいと思う。現在の状況では回収量が足りないため県内だけでは、ペットボトル製造の原料が賅えない状況である。
- ・バーゼル法改正により「飲食物、泥、油等の汚れが付着していないこと」などが新たに基準として設定されたため、ペットボトルの海外への輸出が減少していると県内リサイクル事業者より伺っている。

#### ⑥その他、環境に配慮した取組等

- ・これまでは、一部の商品を本土から仕入れていたが、現在は県内の自社製造を拡大し輸送にかかる

エネルギーの使用量や・CO2の削減にも貢献している。

また、\*プリフォーム容器を採用することで、資材(容器)の輸送時にかかるエネルギーの使用量や・CO2の削減にもつながっている。

- 一般財団法人沖縄県セルプセンターの紹介による、就労支援施設と契約を締結し、容器の分別を依頼。環境対応を行いながら地域経済性への企業貢献も果たしている。

\*プリフォーム (試験管の形をしたPETボトルに膨らませる前の原型となるもの)